

スズキ・メソードの特徴は “暗記と反復”



東京外国語大学長 中嶋嶺雄
才能教育研究会常務理事

～NHK-FM「日曜喫茶室」より(2000年12月17日放送)

NHK-FMの人気番組「日曜喫茶室」に中嶋嶺雄先生(東京外国語大学長、本会常務理事)がゲスト出演されました。

この日のテーマは「弦の音色で趣味三昧」で、ほかのゲストはファッションデザイナーのコシノヒロコさん、ご常連は画家の安野光雅さん、司会は、はかま満緒さん、小泉裕美子さんでした。

ここでは、放送の中から中嶋先生のお話を中心に掲載させていただきます。



小泉 いらっしゃいませ。東京外国語大学長の中嶋嶺雄さんです。中嶋嶺雄さんのご専門は現代国際関係論、中でも現代中国の研究に関しては第一人者として知られています。

東京外国語大学を卒業後、東京大学

大学院で国際関係論を専攻。外務省特別研究員として香港に駐在、またオーストラリア、フランス、アメリカの大学の客員教授をされるなど豊富な海外体験をお持ちです。長らく母校東京外国語大学の教授として学生を指導されていらっしゃいましたが、平成七年に学長に就任され、大学運営に精力を傾けていらっしゃいます。

こうした激務の疲れを取ってくれるのが小学生時代から始められたバイオリン。また登山、水彩画など趣味も多彩で、豊富な外国体験とお得意のスケッチを生かした著書「リヴォフのオペラ座」(文藝春秋)も出していらっしゃいます。

はかま 趣味も幅広いですね。

中嶋 余り上手では無いのですけれども。

はかま 大学の方は移転されたのですか。

中嶋 この十月から府中に新しいキャンパスをつくりまして、学生生活は全

部そちらの方に移りました。キャンパスのオープンングをやったばかりです。はかま 今度は相当広いのですか。

中嶋 そうですね。東京外大は日本で一番古い大学の一つですが、敷地、キャンパス、校舎に恵まれない歴史をたどって来たのです。今までの所は非常に狭くて知的環境に欠けるといふ事から、思い切って三倍ぐらいのスペースを取りました。恐らく東京近郊で、あれだけの国有地が空いていたのはそこしかありません。外大の隣には警察学校が移って来ます。そこに、かなりのスペースが確保できたのです。

はかま アメリカは、すごい土地ですね。環境が良い。例えばミシガン大学などは、街全体が大学ですね。そのようなスケールです。日本はそれからいくと、まだまだこれからののですか。中嶋 スケールは特に東京は、こういう土地の問題ですから、あまり大きくはありません。私は大学作りのコンセプトをアメリカ、オーストラリアなど

から徹底的に学びました。私自身もオーストラリアやアメリカの大学で教鞭をとった経験がありますから。一切、塀を作りませんでした。門もなし。垣根もなし。町の市民が自然に大学の中に入ってこられるキャンパスを作りました。恐らく国立大学のイメージを一掃するようなキャンパスです。で、是非おいで下さい。コーヒーなどが飲めるラウンジや喫茶室とか特別食堂などもあります。

はかま これは欧米に一步近づいたという事です。公園みたいな感じですね。

中嶋 学内にはだいたい反対もありません。大学は社会から隔絶した象牙の塔だという意識がまだまだありますから、それを思い切って取り払い、東京外大みたいな所はまず地域に開かれ、社会、世界に開かれなければいけません。昨日もレストランなどに町のおば様方が大勢来て、図書館にも入って行きました。

●世界的に有名なスズキ・メソッド

はかま そういう大学移転などでお忙しい中、ずっとバイオリン演奏を続けていらっしやるのですか。

中嶋 一時期、自分の専門の領域に没頭していたときは少し中断もありましたが、最近は何を取って来たせいか、むしろ趣味に時間を取ることがとても楽しくて、しょっちゅうバイオリンを弾いています。

はかま バイオリンは、もうプロ級です。今度オーケストラ百人でコンサートマスターをおやりになったそうですね。

中嶋 それは私の夢でもあったのです。九月二十七日に新キャンパス・オープンングの式典がありました。そこで東京外大のオーケストラが「大学祝典序曲」を演奏しました。昔、ラジオの旺文社の大学受験講座に出て来たところだけは皆さん知っています。結構、難しい曲なのです。そこでコン

サートマスターをさせて頂いて演奏するのが私の夢だったので。「大学祝典序曲」というのは、元々校舎ができた喜びを歌っている曲で、しかもブラームスですから、かなり難しいのです。特にバイオリンのハイポジションは非常に速いテンポで出るところなどは難しいものですから、私も一生懸命練習をしました。他が忙しくても、絶対にオーケストラとの練習はサボりませんでしたので大変好評を得ました。

はかま 大学祝典で学長自らが間違えたら、えらいことになりますからね(笑)

中嶋 意外に演奏機会の少ない曲です。難しいから大学のオーケストラも、あまり取り組まないのです。

はかま バイオリンは、いつ頃から始められましたか。

中嶋 終戦直後です。私が小学校三年生のときが終戦です。信州の松本が田舎ですが、そこに松本音楽院という、言ってみれば私塾がありました。木造

の古い建物を使っていました。鈴木鎮一先生という、非常に著名な方がいらっしやいました。

今、スズキ・メソッドというのは世界的に知られています。最近映画になった「ミュージック・オブ・ザ・ハート」はニューヨークのハーレムの子ども達がバイオリンで蘇るというお話で、しかしお金をカットされてしまったので運動をして、最後に子ども達はアイザック・スタインやパールマンなどと一緒にカーネギーホールで演奏するのです。最近話題になりましたね。あれもスズキ・メソッドなのです。それ程世界的に知られているのです。

鈴木先生が昭和二十一年に松本音楽院を作りまして、そこに入りました。私はその第一期生なのです。ところが松本を含めて日本ではスズキ・メソッドに対して、あまりサポートする雰囲気がありませんが、アメリカとか世界に行ってみると本当に有名です。

はかま なぜ、これほど世界中で有名になったのですか。

中嶋 子どもは誰でも母語が喋れますよね。同じように、誰でも音楽ができてという方法を鈴木先生が開発されました。同時にバイオリンというのは「どの子も育つ 育て方ひとつ」ということで、幼児の教育が非常に大切であると強く訴えられています。それが特にアメリカでは共感を得て、今世界中に約三十万人の生徒がいます。その大部分がアメリカ、オーストラリアです。最近では欧州でも。ですから、日本のスズキ・メソッドの子ども達がドイツやフランスに行つて演奏する機会も非常に増えて来ています。

はかま その名前もスズキ・メソッドで、やっているのですか。

中嶋 才能教育研究会と言っています。一年に一回、日本武道館で大会があります。私が今、大会委員長をさせていただいています。

世界の演奏家はスズキ・メソッドと

関係のある人が多いです。例えば日本の江藤俊哉さんにしても、諏訪根自子さんにしても。それから豊田耕児さんが鈴木先生の後を継いで今、才能教育研究会の会長をしております。

はかま 鈴木先生のところにはいらっしやった時は、すでにバイオリンは出来になったのですか。

中嶋 いいえ、全く出来ません。当時はバイオリンを持つことさえも躊躇するような雰囲気でした。終戦直後でしたから。

はかま その当時バイオリンを持って歩いているのはお金持ちの息子で、何か馬鹿にされたりしていました(笑)

中嶋 今でも覚えていますが、雪が町に残っている日、一月でしたか、母に連れられて松本音楽院に最初に行つて鈴木先生に「タカタカタツタ」から教わりました。「キラキラ星」です。

小泉 スズキ・メソードの特徴は、どんなことですか。

中嶋 よく言われるのですけれども、

私は二つあると思っています。一つは暗記することです。本当の演奏家なりバイオリンをきちんとする人は、楽譜を暗記しなければいけません。子どもは柔軟ですから、だれでも暗譜が出来てしまうのです。それが世界の人達を驚かせました。

もう一つは繰り返しことです。何回も反復することです。それによって音楽が自分のものになります。暗譜して繰り返しして自分のものになっていると非常に自信ができます。自信が付くからスラスラ演奏ができる。ですからスズキ・メソードの子ども達は何回も合同練習しなくても、皆同じように暗譜と繰り返しをしていますから、すぐに斉奏が出来ます。

はかま 中嶋さんは、最初に暗譜と反復をした曲は何だったのですか。

中嶋 最初の曲は「キラキラ星」です。「タカタカタツタ タカタカタツタ」というのです。子どもの時に覚えた曲は今でも暗譜で弾けます。

●以前とは違う学力の基準

はかま 普通、そう聞くと芸大に行つて音楽の方に進まれるのかと思つたら、外語大の方に進まれて、しかも中国を研究するというように、まるで話が変わるのですが。

中嶋 鈴木先生のお弟子さんには豊田耕児さんとか小林健次さんのような上手な人達がいまいましたから、そのような優秀な人達と自分はいまにも違つて音楽の道には行けないと早く諦めました。

私は松本の大きな薬局の一人息子で、恵まれて育つてきたのです。ところが高校一年の時、父が事業に失敗しまして逆境に陥りました。家屋敷を全部人に渡して、親子三人でよその家之間借りするという逆境に陥つたのです。その時に自分でも苦勞して、大学にも行けないくらいアルバイトもしたりしました。松本から上高地へ行く鳥々宿まで、雪の降る寒い時に自転車

で薬を一軒一軒訪問販売していた時期がありました。その中で社会の醜いもの、人間関係のいやなこと、親戚一族を含めた、そういうものを全部見てしまったのです。それで現状の社会に対するものすごい反発、不満がありました。

その時に、ちょうど中国が革命直後の瑞々しい新しい中国になって、特に周恩来さんはインドのネルー首相と一緒に平和五原則を掲げました。私は物心が付いて大学をどうしようかと考えていた頃です。言ってみれば中国革命に憧れたというのが動機です。それで中国語を勉強しようということ以外語大に入ったのです。それが、もう少し後になってくると、理想の中国が段々自分から離れた違った国、いわば独裁国家であり、官僚国家であり、夢が崩れて行くのです。特に大躍進政策とか、やがて文化大革命、これは私の考えていた中国とはものすごく違いますから、現在の中国についても厳しい目

を向けているのは、そこにあるのです。それで自分としては現代中国の研究に適したということなのです。はかま 学生運動にも参加されていたということ。

中嶋 それは若気の至りです(笑)

はかま その時に奥様と出会いがあったのですね、学生時代に。

中嶋 若気の至りで、私は当時、全学連のリーダーの一人でした。家内は、たまたま奈良女子大で自治会をやっています、教員の勤評闘争というのがありました。その時にオルグとして出かけて行きました、そこで知り合いました。

六十年安保の時に卒業です。今度は、やがて大学紛争になりました。自ら学生達と対決することになるのです。

我々の時は暴力を使って大学を破壊しようなどとは全くしませんでしたから、それに対しては断固とした立場を貫いたつもりです。

はかま その時に、そういう思想に

入って段々これは違うと気づかれたのですね。奥様だけは最初に思った通り、今でも続いているらっしゃると。今は学長になられて生徒達を指導されるお立場で、いかがですか。

中嶋 最近は大學生の幼児化とか学力低下とか言われますが、私は必ずしもその意見に賛成ではありません。特に東京外大の場合は、ものすごく女子学生が多いです。六割以上が女子学生です。女性が一生懸命勉強すると成績が良いわけです。国立大学ですから入学試験の成績というのはコンピュータで出して線を引くだけです。そういう女子学生を含めて今の若者は、我々が考えていた学力とは違う基準というか動機で動いています。

具体的な例をお話しますと、私のゼミの女子学生ですが、ゼミにいた頃は皆と打ち解けず少し孤独かなと思っていました。ある時グラウンドに行ったら一人で槍投げをしているのです。女

子がグラウンドで黙々と槍投げをしているのを見て、何かを持っているなど思ったら、その学生は就職せずに「アメリカへ留学したい」と。留学するならばTOEFLというアメリカ留学の試験で六百点前後取らなければ駄目です。そうでないとアメリカへ留学しても結局ドロップアウトしますから。本人はがんばってそのスコアを取りまして、アメリカで二年間勉強しました。帰って来たら「青年海外協力隊でパナマに行きたい」と言い出して、そこへ行きました。ロシア語の学生ですが、アメリカで勉強したので英語もよく出来ます。修士を取りましたから。パナマへは青年海外協力隊で行ったので、都市にいたわけではありません。農村地帯にずっと入って福祉活動をして来ました。「何語を使ったのか」と聞きましたら「スペイン語です」と言うのです。アツという間にロシア語、英語、スペイン語が出来てしまったのです。つい最近帰って来まして

「ニューヨークの国連開発計画に採用になり、今度ニューヨークに行きます」と報告に来ました。

これを見ると我々の時代と違い、もっと大きな次元で、世界的に動いています。こういう学生が非常に多いのです。彼女はある意味では、言ってみればフリーターです。良いラベルの会社に直ぐ就職しようとする意識と、少し変わって来ています。それを一概に否定するのではなくて、東京外大はそのような学生を大勢育てるべきであると思います。学力の基準が以前とは違うのです。

はかま その立派な学生が何故一人で槍投げをしていたのですか。

中嶋 やはりどこか孤独なところがあつて自分を鍛えていたのではないのでしょうか。私はその事を後になって、ずっと考えて、学生時代に槍投げをしていた姿が実は今日の彼女を生んでいるのではないかという気がしています。はかま 何か一つ自分を鍛えるという

ことですか、孤独で精神を。

中嶋 孤独に耐えるということが、ある時期必要です。語学、音楽もそうです。はかま そういう学生がいるということとは頼もしいですね。ひとつかみにマスコミが言う「今の若い者は」というのは実に当てにならないで、色々な人が今でもいるということなのです。

中嶋 人生というのは勿論、皆と仲間でいろいろな事をするのは楽しいけれども、本当の楽しさを作るためには、ある一定期間、孤独である必要があると思います。有名な文豪が言っているように「一人にいる時ほど孤独でないものはない」。これは一つの真理だと思ふのです。やはり、その時間は自分が創造的な事をどのように蓄積するか、ということではないかと思ひます。はかま 今日はその趣味のお話を伺うわけですが、その前に歓迎の音楽をおかけします。何がよろしいですか。小泉 お好きな曲がダンディ作曲の「フランスの山人の歌による交響曲」

と伺ったのですけれども、これはどのような思い出がおありなのでしょう。か。
 中嶋 山国で育ちましたから、私も山に登りますし。それもありますが、このダンディは今世紀三十年代まで生きていたフランスの作曲家でもあり演奏家で、初めはオルガニストでもありました。それでいながら、非常に透明感がある明るい音楽なのです。ワーグナーにも影響を受けましたし、フランクというどちらかというと宗教的な感じのする、しかもフランス的なメロディーの作曲家にも影響を受けています。たくさん曲も作っていますし音楽理論も素晴らしいし、大変大人な人なのです。ものすごく交響的な人生も送っていますが、意外にダンディの音楽というのはあまり紹介されていません。この「フランスの山人の歌による交響曲」はとても素晴らしいので、皆さんに是非聴いていただきたいのです。

(後略)

会で取扱っている教育図書

鈴木鎮一	愛に生きる	六六〇円	小林武史	ヴァイオリン二挺世界独り歩き	一、五〇〇円
鈴木鎮一	幼児の才能教育	一、六六〇円	高橋利夫	あなたと大作曲家の相性	一、四〇〇円
鈴木鎮一	藤田 第一集(復刻版)	二、七八〇円	中嶋嶺雄(本会常務理事)	リウオフのオペラ座	一、六〇〇円
	藤田 第二集	二、八五〇円	ビグラー・ワッツ	音楽を超えて	三、五〇〇円
	藤田 第三集	二、八五〇円	鈴木静子・背木章子	スズキ・メソードのピアノの正しい指導法	一、五〇〇円
鈴木鎮一	バイオリンの教育法(復刻版)	七五〇円	細田和枝	まるかじりのピアノ	六、〇〇〇円
鈴木鎮一	奏法の哲学	二、四〇〇円	堀 要	幼児期の再検討	三〇〇円
背木謙幸	想い出の名演奏家	二、三〇〇円	山村晶一	道しるべ	二、〇〇〇円
背木謙幸	続・想い出の名演奏家	二、三〇〇円	上里吉堯	幼稚園はおもえたたちのために	一、五〇〇円
鈴木夫人	鈴木鎮一と共に	一、二〇〇円	Suzuki	Nurtured by Love(愛)を生	二、三〇〇円
本多正明	脳障害児も治る	一、五〇〇円		きる(英語版)	
本多正明	ドクター・ホンダのおもしろい英語の格言	一、二〇〇円			
本多夫人	金婚式を迎えて	一、八〇〇円			
スズキ・メソード学術研究会編	21世紀の感性教育	二、〇〇〇円			